

町政を問う！

一般質問



田村 幸紀 議員 9ページ

- 1 自治体 DX の推進に向けた進捗



佐藤 幸一 議員 10ページ

- 1 妊婦健康診査等に対する支援について
- 2 まちの景観について
- 3 清水高等学校存続支援について



山本 奈央 議員 11ページ

- 1 「十勝清水学」をもっと多くの方が学べる機会を



中河 つる子 議員 12ページ

- 1 能登半島地震を見ながら、清水町の災害対策を考える



只野 敏彦 議員 13ページ

- 1 蜂の巣駆除について
- 2 体育館建設について
- 3 人口減少対策について



川上 均 議員 14ページ

- 1 防災対策専門部局の創設について考えを問う
- 2 インセンティブ交付金から見た高齢者の自立支援の評価指標の現状と今後の取り組みについて考えを問う
- 3 広報しみず及び SNS を活用した今後の町の広報戦略について考えを問う



鈴木 孝寿 議員 15ページ

- 1 役場における町民への過払い未払いの取扱いについて
- 2 公的な団体における決算報告の見える化について
- 3 出張等における外部団体からの旅費の受領について

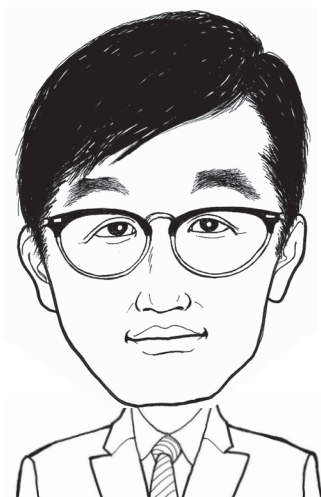
3月定例会では、7人の議員が15項目にわたり一般質問を行いました。

※1議員最大3項目まで掲載、質問と答弁は要約し掲載しています。なお、一般質問の全文はホームページでご覧になれます。（3月定例会の内容は、6月末に掲載予定です）

一般質問とは

議員が町政全般に関して、執行機関（町長や行政委員会）にその執行の状況や将来の方針、住民生活に密接に係わる事項等について質問をすることをいいます。

清水町議会では1人の質問時間を答弁も含めて90分以内としています。



田村 幸紀 議員

自治体 DX の推進に向けた進捗

業務効率化や行政サービスの向上に
町長 向けて、デジタル技術の新規導入に
取り組んでいく

問

人口減少や少子高齢化、それに

伴う担い手不足や地域経済の縮小傾向は避けて通れず、小さくても質の高い行政サービスを提供するという町の基本理念の中で行政サービスのデジタル化を本格的に求められている。

この自治体 DX とは、単に「D・デジタル技術」を通常業務に取り入れる

だけのものでは無く、行政サービスを「X・トランスフォーメーション（変化・変革）」することが重要であり、業務効率化により生じた余力を手助けが必要な方々へきめ細かなマンパワーを発揮できるものとして、これらの時代で必要不可欠であると感じている。

目まぐるしいスピードで変革する社会情勢とこれから起こり得る様々な地域課題解決に向け、本町の自治体 DX 推進と導入計画についての進捗と

新事業導入に対する役場内の適正配置について伺う。

町長

令和5年8月に、デジ

タル社会に対応していくように DX に対応し得る人材の育成、デジタルマインドの醸成を目的とした職員研修を実施した。

令和6年度には新たに公式 LINE の導入や地デジ広報を実施するほか、デジタル技術や AI（人工知能）等の活用により業務効率化を図るとともに、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていくことを目標に、本町の DX 推進の基本方針を定める必要があると考えている。

この基本方針検討に向けては、各課横断的に住民にとって利便性のあるサービスや現状抱えている課題を各課で洗い出す作業を進めていく。

また、DX 推進の先進地視察や情報収集により

本町で実現可能なものか否かを考え、適切な時期に適切な判断を下せるよう引き続き検討していく。

日々の業務を執行する中で課題を一番理解しているのは、住民サービスを直接担当している窓口職員であることを理解し、DX 推進という新たな事業を展開していくうえで、限られた職員配置の中の担当窓口職員を中心としたプロジェクトチームで、新規導入に向けて取り組んでいく。

問

全国の自治体では、ペーパーレス化や書かないワンストップ窓口、コンビニ交付、電子決済、ドローンを活用した防災施策等のような導入事例がとも増えてきているが、本町では DX の先進地視察などは実施しているのか。

町長

先進地視察等について

は、近隣町村でも行われている、議案書のペーパーレス化について担当職員が導入している市町村に伺って、情報収集してきた実績はある。

国で先進的な事例集が出されたということもあるので、プロジェクトチームでも活用していきたいと考えている。また、必要があれば、先進地視察調査を行っていきたいと考えている。新年度予算に関しても、どれだけの段階で取り組めるかというのはわからないが、その中で検討した上で実施していこうと考えている。

